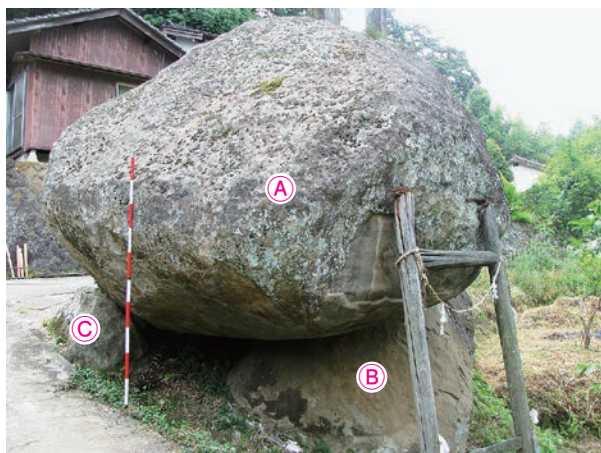
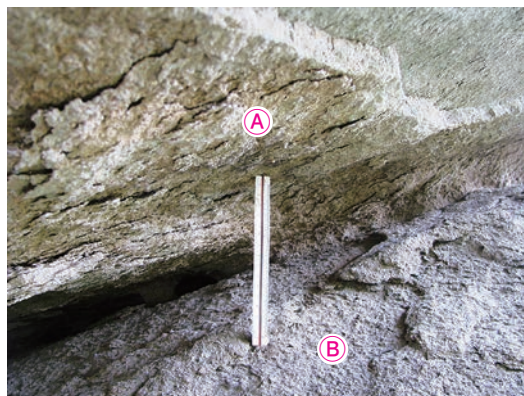


玉湯町の「弁慶岩」



弁慶岩



岩塊①と②の境界

2013 年 5 月 24 日の山陰中央新報に、弁慶に縁があるとして「弁慶岩」の記事が掲載されていました。松江市玉湯町林の柳井地区にある弁慶岩には、三柱の神様が祀られており、地元の方々に毎年 3 月に神事が催されるそうです。

松江市中心部から国道 9 号を西方（出雲市方向）に向かい、玉造温泉を経由し鳥ヶ崎を過ぎた地点①～③から南方に行くくと柳井地区に至ります。地点①には目印になる物はありませんが、地点②には柳井の点滅信号があり砂岩の露頭が見えます。地点③は勝部石材店のある鏡の交差点で、柳井地区に至る地点④付近の峠には来待石の採石場があります。

地点⑤の柳井公会所に駐車させて貰い、柳井川の上流側へ 100m ほど歩くと、民家に至る道の脇に弁慶岩が見えます（写真左）。

弁慶岩は、民家背後の丘陵と柳井川との間の緩斜面にあります。5 万分の 1 地質図幅「今市」によれば、柳井付近には新第三紀中新世の大森層に属する砂岩が分布しています。弁慶岩は大森層（来待層）の砂岩で、火山起源の岩片や鉱物片が混じっている凝灰質砂岩（来待石）です。

弁慶岩は大小 3 つの岩塊からなり、最も大きい岩塊①は目測で幅 6m×高さ 4m、岩塊②は 4m×2m、岩塊③は 1m×1m ほどの大きさがあります。一見すると大小 3 つの転石が重なっている様に見えますが、岩塊①



背景地図などのデータは、国土地理院の電子国土 Web システムの配信による。

と②は繋がっています（写真右）。このことから、弁慶岩はかつて岩塊①②③が一体の露岩であったと推察されます。割れ目沿いに風化が進みコアストーンが形成され、岩塊③は風化部が流失し完全に分離したが、岩塊①と②は辛うじて繋がっているのが現状と考えられます。残念ながら、弁慶岩は弁慶が蹴飛ばした岩ではなく、弁慶の時代より遥か昔から柳井にあった露岩のようです。（武島正幸*）

* 雲南市三刀屋町